島留学生の、もうひとつの「居場所」になる。

海も、山も、
人も、みんなが
育ててくれる場所。

親元を離れ、佐渡で高校生活を送る島留学生。
新しい土地での毎日には、楽しいことも、戸惑うこともあります。
何気ない「おかえり」や「大丈夫？」の一言が、
誰かの安心につながる。
高校生の暮らしに寄り添い、その成長を見守る。
そんな地域おこし協力隊を募集します。







佐渡市　地域おこし協力隊

地域みらい留学支援

令和9年度（2027年4月採用）

会計年度任用職員（パートタイム）

ここで出会う、
かけがえのない３年間がある。

高校生の暮らしを支え、地域の未来を育てる仕事です。

羽茂高校では、全国から生徒を受け入れる
「地域みらい留学」に取り組んでいます。
島で暮らしながら学ぶ高校生が、安心して生活し、
地域の人とつながり、将来に向かって成長していくために、
その日常を支える「地域おこし協力隊（会計年度任用職員）」を募集します。

この島で出会う
人や経験が、
きっと未来につながっていく。

主な活動内容



01 暮らしのサポート

日常的な声かけや見守り、食事・生活リズムの支援、体調不良や生活上の困りごとへの対応など、暮らしに寄り添います。



02 学校・保護者との連携

生徒の状況を共有し、学校や保護者、行政などと協力しながら、必要な支援につなげます。



03 地域とのつながりづくり

地域の方々との交流機会をつくり、高校生が学校以外にも安心できる居場所を見つけられるよう支援します。



04 持続可能な支援体制づくり

３年間の活動を通じて、地域全体で島留学生を見守る仕組みづくりを進めます。

求める人物像

- ☑ 高校生一人ひとりに温かく寄り添える方
- ☑ 適切な距離感で信頼関係を築ける方
- ☑ 料理や掃除など、日常生活の支援ができる方
- ☑ 学校・保護者・地域の方と丁寧に連携できる方
- ☑ 佐渡での暮らしを楽しめる方

※ 教育関係の資格や経験は必須ではありません。

3年間の活動イメージ

1年目
高校生との信頼関係づくりと生活支援体制の基礎づくり

2年目
地域との交流拡大と居場所づくり

3年目
地域全体で継続できる見守り体制の構築

募集概要

（予定・詳細は正式な募集要項をご確認ください）

募集人数	１名
活動内容	島留学生の生活サポート
任用形態	佐渡市会計年度任用職員（パートタイム）
任用期間	年度単位での任用（1年間程度から可能、最長３年間）
勤務日・時間	原則、月曜日から金曜日 ８時30分～17時00分（休憩１時間） 休日：土曜日、日曜日、祝日 ※通勤内容や地域の事情により、勤務日・時間等を調整する場合があります。
報酬	時間単価 1,411 円（通勤手当、期末手当等あり）
社会保険等	雇用保険、厚生年金、健康保険は、佐渡市会計年度任用職員関係に関する規則に準じて加入します。
応募資格 応募方法・選考	正式な募集要項をご確認ください。

佐渡での暮らし



豊かな自然に囲まれ、地域の人との距離が近い佐渡では、日々の暮らしの中に学びや出会いがあります。高校生とともに過ごす時間は、あなた自身の人生も豊かにしてくれるはずです。

応問い合わせ
佐渡市役所　地域振興部　移住交流推進課
〒952-1292　新潟県佐渡市千種 232 番地
0259-67-7153

島留学生の、もうひとつの 「居場所」 になる。





ミ ッ シ ョ ン 名： 島外からの地域みらい留学生の生活サポートと定着支援

着　任　地　域：佐渡市移住交流推進課

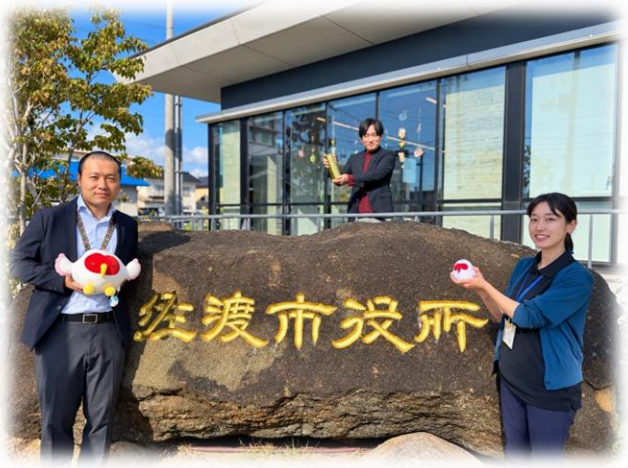


着任地域紹介（団体紹介）

佐渡島は日本最大級の離島で、島内には５つの高校があります。少子高齢化の影響により島内の生徒数が減少する中、佐渡市では島外から高校生を受け入れる「地域みらい留学」の取り組みを進めています。なかでも羽茂高校では令和５年度から受入れを開始しており、令和８年３月に第１期生が卒業を迎えました。

島外からやってくる島留学生は、広い空、海、田園風景に囲まれた環境の中で、地域の人との交流や島ならではの学校生活を経験します。

佐渡市では、羽茂高校と連携しながら、島留学生が「佐渡に来てよかった」と思える３年間を過ごせるよう、生活面から支える仕組みづくりを進めています。





（世話人）

佐渡市移住交流推進課職員が３年間お世話します。

〇解決したい課題、事業ミッション

【課題】

親元を離れて佐渡で暮らす高校生が、学校生活だけでなく、日々の生活そのものに安心して馴染んでいけるようなサポート体制が必要不可欠です。

体調を崩したとき。学校で嫌なことがあったとき。友達との関係に悩んだとき。
進路について迷ったとき。何となく気持ちが落ち込んでいるとき。

親元を離れているからこそ、「ちょっと聞いてほしい」と思ったときに身近に頼れる大人がいることは大きな支えになります。また、食事や生活リズム、季節の変化、地域との付き合いなど、生徒自身では気づきにくい日常の困りごとに寄り添うことも必要です。
こうした一つひとつに丁寧に寄り添いながら、生徒本人の自立を支えていく「生活ケア」の担い手が必要となっています。

【ミッション】

「羽茂高校の島留学生の暮らしを支える」

・日常的な声かけやコミュニケーションを通じた生徒の見守り
・食事や生活リズムなど、日々の暮らしに関するサポート
・体調不良や生活上の困りごとがあった際の対応、相談
・生徒と学校、保護者、地域との橋渡し
・生徒が佐渡で「自分の居場所」を見つけられるような地域とのつながりづくり

〇3 年後の目指す姿（当該地域・協力隊員）

協力隊員：生徒たちのサポート体制を確立するとともに、これまで培った生徒や地域とのつながりを生かして活動を継続することも期待します。

当該地域：協力隊員と連携して生徒のサポート体制を構築し、協力隊員を卒業した後も本人の希望に応じて活躍できる体制を一緒に考え、作り上げていきます。

〇協力隊に求めるスキル（人物像）

・高校生と大人として適切な距離感を保ちながら、信頼関係を築ける人
・料理、掃除、家事など、日々の暮らしを支えることができる人
・子どもや若者の成長を、すぐに答えを出すのではなく、じっくり見守れる人
・学校、保護者、地域の方など、さまざまな立場の人と丁寧にコミュニケーションを取れる人